

平成 22 年 4 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19520238

研究課題名 (和文) 米国日系および白人コミュニティにおける文学作家の形成と受容の調査研究

研究課題名 (英文) A Research on the Making and Reception of Literary Writers in the Japanese American and White Communities

研究代表者

前田 一平 (MAEDA KAZUHIRA)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：50157129

研究成果の概要 (和文)：米国ワシントン州シアトルの旧・日本街を現地調査し、第二次世界大戦後の歴史に埋もれたシアトル日本街の歴史と地理の復元にあたった。それによって、この街を舞台とする日系アメリカ文学の歴史的地理的背景を具体化することができた。また、作家ヘミングウェイの故郷イリノイ州オークパークを現地調査し、この町のほとんど未詳の歴史についてリサーチをした。それによって、ヘミングウェイの誤解された出自および故郷との確執を明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：I did research at the old Japantown in Seattle, Washington to recover the history and geography of the town lost in the post-war history. By the research I could materialize the historical and geographical background of the Japanese American literary works set in the Japantown. I did another research in Oak Park, Illinois, Ernest Hemingway's hometown, to have clear understanding of the town's so far scarcely known history. I have succeeded, through the research, in revising the Hemingway's misunderstood origins and uncovering the discord between Hemingway and his hometown.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：米文学、コミュニティ研究、日系アメリカ人、ヘミングウェイ、シアトル、オークパーク

1. 研究開始当初の背景

(1)アメリカ合衆国の文学・文化・歴史の研究は依然として白人中心に進められている一方で、文化多元主義を反映してアフリカ系ア

メリカ人、ネイティブ・アメリカン、チカーノ (ナ) (メキシコ系) をはじめとするヒスパニック系アメリカ人などの少数民族集団の研究 (エスニック・スタディーズ) も盛ん

になってきた。しかし、われわれ日本人と人種上も歴史上もきわめて深い関係にある日系アメリカ人に関する研究はいまだに手薄である。特に、米国西海岸に散在する日系人コミュニティの地域性については研究が遅れており、消えつつある「ニホンマチ」に関する早期の研究が望まれる。また日系アメリカ文学研究もわが国においては研究が途上である。代表的な文学作家を輩出したシアトルの「ニホンマチ」と文学の関係も未開拓の分野であり、早急なリサーチが必要である。

(2)対照的に、作家アーネスト・ヘミングウェイについてはヘミングウェイ産業とも呼べるほど研究が進んでいる。大衆性が高い故に、ヘミングウェイについてはおびただしい数の伝記も書かれている。作品の舞台となった米国のミシガン、フランスやスペインをはじめとするヨーロッパ各地、アフリカ、キューバなどには数多くの研究者がついていて、詳細な研究がなされている。ところが、奇妙にもヘミングウェイの故郷であるイリノイ州オークパークは長らく研究者に無視ないし軽視されてきた。ヘミングウェイは故郷を舞台とする作品を書かなかったからである。しかし、これまでに実施したリサーチによって、ヘミングウェイと故郷との確執に関わる興味深い事実に行き当たった。ここからヘミングウェイと故郷との関係に関わる研究を再開して、これまで軽視および誤解されてきたオークパークの歴史を解明し、創られたオークパーク観を修正する必要がある。

2. 研究の目的

(1)シアトルの旧ニホンマチは現在、インターナショナル・ディストリクトあるいはチャイナ・タウンと呼ばれ、主として中国系、日系、フィリピン系、ベトナム系の店舗が集中するアジア系アメリカのコミュニティであるが、圧倒的に中国系の街である。日本軍によるパールハーバー襲撃後、シアトルの日本人および日系人は立退きを命じられ、強制収容された。その後中国系が流入したのである。このように歴史の中に失われたシアトルのニホンマチを回復することが本研究の第一目的である。それによって、シアトルのニホンマチを舞台にしたジョン・オカダの小説 *No-No Boy* とモニカ・ソネの自伝 *Nisei Daughter* の歴史的地理的背景を復元し、両作家の出身地でもあるニホンマチと作家形成の関係を解明することが、最終目的である。

(2)これまでオークパークとヘミングウェイとの確執について、断片的な情報や資料を収集し、それをまとめて雑誌や新聞に記事として発表していたので、滞っていた時点から研究を再開し、本格的にオークパークの歴史と

その実態を調査することが目的である。オークパークの歴史を調査することによって、偏狭な故郷の町からの離反というヘミングウェイ神話を修正し、ヘミングウェイと故郷の町との確執を解明することがヘミングウェイと故郷との関係に関わる研究の最終目的である。

3. 研究の方法

(1)米国シアトルにある州立ワシントン大学のスティーヴン・スミダ教授とゲイル・ノムラ教授、日系新聞『北米報知』社の佐々木志峰記者の援助を得て、シアトルの旧ニホンマチ（現在のインターナショナル・ディストリクト）を調査した。上記3氏とはすでに面識があり、今回のリサーチについても援助の約束を取りつけていた。特にスミダ教授にはジョン・オカダとモニカ・ソネに関する文学研究の指導を、ノムラ教授にはニホンマチの人種問題、特にアフリカ系アメリカ人の実態について情報提供を受けた。佐々木志峰氏には第二次世界大戦直後の『北米報知』紙の調査について援助を受けた。

(2)1990年代初期にオークパークで予備調査をしたときに、オークパーク・ヘミングウェイ財団、オークパーク公立図書館、オークパーク・ハイスクール、オークパーク歴史協会の援助を受けていたので、今回も特にヘミングウェイ財団の協力の下で資料収集と聞き取り調査を実施した。なかでも、資料の展示が充実したヘミングウェイ博物館と復元された生家において調査をした。90年代に個人的に援助を受けた元オークパーク・ハイスクール教員で初代ヘミングウェイ財団会長のモリス・バスキー氏が死去されていたので、本人から直接の指導を受けることはできなかったが、本人がハイスクール時代のヘミングウェイに関する資料を本として出版していたので、それ入手し、調査対象とした。これらの環境の中で、1990年代初期からおよそ15年後のオークパークの変化を研究の視野に入れた。

4. 研究成果

(1)研究の主な成果：シアトルの旧ニホンマチについては現地で有用な文献や資料（第二次世界大戦後のニホンマチを報告する日系新聞記事や、ニホンマチ周辺に居住していたアフリカ系アメリカ人の歴史や現状に関する論文と研究書など）を収集できたこともあって、特に第二次世界大戦前後のニホンマチの歴史と地理をあらかじめ復元できた。それによって、シアトルのニホンマチ出身の作家ジョン・オカダとモニカ・ソネを研究する歴史的地理的背景を明らかにできた。特に第二次世界大戦後のニホンマチを舞台とするジョ

ン・オカダの小説 *No-No Boy* の歴史と地理を復元し、「ノー・ノー・ボーイ」たる主人公イチロー・ヤマダがどこに収容され、どこに収監されていたのか、また、彼の人種や国籍に関わるアイデンティティの苦悩は何に起因するのか、戦後のニホンマチの荒廃した風景とイチローの荒廃した精神の平行が意味するものは何なのか、イチローが必死に白人社会に同化しようとする精神は何なのか等々にかかわる問題があらかた解決できた。また、スミダ教授から初期のニホンマチの賑わいを描いた長井荷風著『アメリカ物語』を紹介された。これは日本人作家による貴重な報告として重要な資料になった。さらに、戦後のニホンマチにたむろするアフリカ系アメリカ人について、ノムラ教授よりワシントン大学歴史学教授クイナード・テイラーを紹介され、同教授が調査したニホンマチ周辺のアフリカ系アメリカ人の歴史や実態について詳細な情報を得た。これらのリサーチ結果を下記の「5. 主な発表論文等」に示した雑誌論文②にまとめ、学会発表②で発表した。

また、オークパーク研究においても地元の図書館、歴史協会、ジャーナリスト、ヘミングウェイ財団などから情報と資料の提供を受け、オークパークの歴史をヘミングウェイとの関係から解明し、これまでヘミングウェイ研究者によって曲解ないし誤解されてきたオークパーク観を修正することができた。アメリカには文明、都市、家庭、女性、故郷からの離反という男性神話があり、ヘミングウェイもその神話に組み込まれ、お上品で道徳的な故郷オークパークに反逆したという解釈がなされてきた。これは定説となり、保守的で閉鎖的で排他的な故郷というオークパーク観が定着した。しかし、これは先のアメリカ男性神話に加えて、大都市郊外を揶揄する傾向にあった1950年代から60年代の郊外観の影響が大きいことを解明した。

オークパーク研究の副産物として、ヘミングウェイと故郷の確執について興味深い事実を突き止めた。1970年代のはじめまで、オークパークは地元が輩出したピューリッツァー賞およびノーベル賞受賞作家ヘミングウェイを許していなかったのである。その背景には、ヘミングウェイ文学およびヘミングウェイの生き方がオークパークの宗教、道徳、文化に対する侮辱であったという考えがある。現在は世代が交代し、ヘミングウェイ財団などの活躍もあって、このような確執と誤解は解消している。毎年夏にヘミングウェイ祭が開催されるに至るまでヘミングウェイの名誉は回復している。

これらのリサーチ結果をもとに、ヘミングウェイと故郷オークパークに関する研究をまとめた。学会発表2件（両発表ともシンポ

ジウム形式で、いずれのシンポジウムもコーディネーターを務めた）、雑誌論文2本、単著書1冊がある。

(2) 研究の位置づけとインパクト：シアトルのニホンマチ研究とオークパーク研究のいずれもわが国では研究はほとんどなされていない。その意味でも特に日系アメリカ人研究やヘミングウェイ研究における貢献は大きいと思われるし、日本では皆無に近い両コミュニティ研究者として存在を認められたと自負している。

日本でも日系アメリカ人研究は進んでいるが、地理的には圧倒的にカリフォルニア州に関する研究が多い。シアトルを中心とするワシントン州の日系人研究はまだ未開拓の分野である。その意味で、日本における日系アメリカ文学研究を推進する学会、アジア系アメリカ文学研究会において、シアトル研究の先鞭をつけることができた意義は大きいと思われる。

オークパーク研究については単著を出版したことによって研究に一応の区切りをつけた。本著書は日本ヘミングウェイ協会をはじめとするアメリカ文学関係の学会においても、オークパークおよび幼少期のヘミングウェイに関する研究として参照される本になると思われる。すでに、書評紙『週刊読書人』（2010年1月15日付）における書評で、本書は極めて高い評価を受けている。

いずれの研究も海外でのインパクトまでは及ばないが、リサーチを通じて両コミュニティとのコネクションを維持できることは意義深いと思われる。

(3) 今後の展望：オークパーク研究はこれを含む単著書を刊行して一応の区切りをつけた。シアトルのニホンマチ研究は歴史と地理についてはあらかた解明できたので、今後はニホンマチが存在していた20世紀前半のニホンマチ周辺の人種構成状況を解明することと、ここ数年で日系人による回想記などが相当数出版されているので、これらを渉猟して研究に肉づけをすることが必要である。

特に今後の研究テーマを形成することになるとと思われることは、第二次世界大戦前後のニホンマチおよび周辺における人種状況である。中国人、フィリピン人、アフリカ系アメリカ人、白人全般が、どのような歴史的背景をもってこの地区に流入してきたのかを研究する必要がある。その人種状況の中で日系人と他の人種との関係を解明することによって、ニホンマチをより明確に復元することができると思われる。実際、ジョン・オカダの *No-No Boy* もモニカ・ソネの *Nisei Daughter* も被差別関係にあった白人のみならず、アフリカ系、中国系、フィリピン系の

人たちとの関係を描く。このような人種状況を解明することによって、本研究がシアトル旧ニホンマチに関する多角的な研究へと発展することが期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

①前田一平、ジェイク・バーンズの出自を『教える』—歪曲された故郷オークパーク—、*The Hemingway Review of Japan*、査読有、Number 10、2009、17-32

②前田一平、*No-No Boy* の地理学—失われたニホンマチ/イチローの回復、*AALA Journal*、査読有、No. 13、2007、69-77

[学会発表] (計 2 件)

①前田一平、ヘミングウェイを教室で教える—『日はまた昇る』の場合、日本ヘミングウェイ協会第 19 回全国大会シンポジウム、2008 年 12 月 20 日、東京女子大学

②前田一平、日系文学と場所の感覚、日本英文学会中国四国支部第 60 回大会シンポジウム、2007 年 10 月 28 日、松山大学

[図書] (計 1 件)

①前田一平、南雲堂、若きヘミングウェイ—生と性の模索—、2009、430

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前田 一平 (MAEDA KAZUHIRA)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：50157129

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし